

## 株式会社 百五銀行

### インフォメーションミーティング（2023 年度中間決算説明会）における主な質疑応答

#### 【質問①】

Q. 決算について。一般貸倒引当金の算定方法をより保守的な方法に変更したことにより、一時的な費用が 18 億円増えているとあったが、具体的にはどのように変えたのか。

他行では今年度上期において外貨調達コストが上昇することによって資金利益にマイナスの影響が出ているのが一般的であるが、御行の場合は金利上昇に伴う有価証券利息は増えている一方で、外貨の調達コストの上昇は資金調達費用と合わせて、その他業務の外為のところを出ているという理解でよいか。

A. 一般貸倒引当金に関しては、今後発生し得る景気後退期の事象に備えるという意味合いから、過去よりも高い実績率を加味して考えた。今までは過去 5 年間の実績を見ていたが、それを今回は過去 7 期、7 算定期間プラス過去に一番高かった、例えばリーマンショック期の実績率を合わせて平均するという形で見たと。そのためかなり余裕を持った引当ができていていると考えている。

外貨については、有価証券の売買の中でも説明したとおり、早くから固定債は売っていたので金利上昇による影響は少なかったが、今は変動債が中心になっている。

調達費用は上がっているが、変動債の上昇分でカバーできる部分と、その他業務に入っている部分があり、全体の利鞘としては十分に確保できている。

#### 【質問②】

Q. 企業価値について。資料 19 ページにある配当性向 30%を目指すというのは、今中計期間中である来年度までという認識でよいか。

仮に 30%になっても、現状では配当利回りが 3%までは到達しておらず、地銀平均を少し下回る。次の段階からさらに配当性向 30%を高めるというのは考えとしていかがか。

有価証券の含み益が多いのはいいことであるが、時価総額を超えている。例えば株の含みを有効に活用する方法として、持ち合い解消であるとか、含み益を時価総額につなげていく考えはあるか。

A. 配当性向の 30%について、今中計ないしは 150 周年の次の中計を含めて 30%と考えている。考え方としては、基本的に安定的な配当を続けるというのが目標である。多少収益が厳しくなったとしても配当を落とさないようにしたいという中で、安定的に出せる配当性向が何%かを考えており、単純に数字だけを追っているわけではない。

有価証券の含み益に関しては、有効活用していきたいと考えているが、具体的な策は今のところない。政策投資株式に関しても、投資有価証券として見た場合の利回りが一般の投資よりもはるかに大きい。それを売却して再投資するものがない、という状況がよいのかどうかも考えなければならない。

【質問③】

**Q. 中計について。連結当期純利益 150 億円以上の目標は今期達成となるが、中計進行中であるものの数値を見直す考えはあるのか。**

**A.** 予定よりも早く 150 億円を達成する見込みであるが、主な要因として考えられるのは、一般の営業部門では、住宅ローン関係が非常に順調に伸びている。ただし、今後の環境を見通したときに、金利環境がやや上昇気味であることと、着工件数がやや愛知県でも落ち気味にあるということを見ると、当初予定していた住宅ローンを継続できるかどうか、先がまだ読めないような状況である。そのため、慎重にならざるを得ないところがあり、今の段階では予定に組み込めない状況となっている。

【質問④】

**Q. 資本政策について。現在バーゼルⅢの早期適用で自己資本比率が上がっており、経過措置から完全適用に向けて自己資本比率は徐々に下がっていくようなイメージになるかと思うが、見込み値について教えてほしい。また、25 年 3 月末時点での自己資本比率目標が 11%以上となっているが、例えばこれが 12%に着地した場合においても、11%以上のため特段問題視されないという理解でよいか。**

**A.** バーゼルⅢの早期適用に関して、経過措置適用外で考えると、約 10%と思っている。25 年 3 月の 11%というのは、現状の 12%から 10%に向かっていく前提で作っており、12%でも達成とは見られるが、資本効率であり自己資本を多くしすぎてもというのがあるので、状況を見ながら考えたい。

【質問⑤】

**Q. 資料 25 ページの住宅ローン関連手数料の成長が高めの目標になっている。一方で、直近 2 年間、あるいは今年度上期の実績を見ると、やや目標対比ではビハインドしているように見えるので、こちらの評価を教えてほしい。加えて、無担保ローン、あるいはカーローンのところで組み合わせて住宅ローン関連に係る総合的な収益性を高めていくのが非常に重要と理解しているが、RORA なり、何かしら収益性について把握しているか。名古屋金利と言われる金利環境もあると思うが、そちらの見通しとあわせて、今後の足元の収益性あるいは今後の収益性のところについて見込みを教えてほしい。**

**A.** 住宅ローンの実績については、獲得ベースで年間目標 3,600 億円に対して 23 年上期で 1,829 億円であり、順調に進んでいると思っている。手数料に関しては、手数料を利息に乗せた定額型と、手数料を別にして利息を低くする定率型という型があり、顧客希望により定額型が増えているため関連手数料が少し落ちているが、実績としては問題ない。ただし、着工件数が少し落ち気味なのと、金利状況は注意しないといけない。採算性について、住宅ローンだけでは採算性は低いと思っている。そのため、住宅ローン利用者向けにマイカーローンの借り換え、一時的な家計補助的なローンのクロスセルで組んでおり、収益向上に向かって努力している。

【質問⑥】

**Q. 業務純益が地銀の中でも大きく伸びてきたのは、積極的な住宅ローン推進の結果だと思うが、金利上昇・着工件数減少、国内金利上昇など外部環境の変化がある中で、今までのような戦略が続くのか、方針変更はあるのか。**  
**住宅ローンは変動金利が多いと思うが、今後金利上昇分を顧客に転嫁できるのか、その際にネットバンクなどとの競争でそちらにシフトしてしまう想定はあるのか、住宅ローン環境を教えてください。**

**A.** 住宅ローンについては、愛知県、三重県の住民の方々の住宅に対する意欲というのは非常に高いので簡単には落ちないが、金利環境によっては落ちると考える。今のままの伸びを前提とした戦略は立てづらい。有価証券等の投資も含め、償還分を住宅ローンでカバーしてきたが、少し柔軟に有価証券投資を増やしたいと思っている。住宅ローンは変動金利のものが大半である。お客さまの返済額自体は5年に1回しか増えないが、金利と元金との割合の中で、金利はプラスで入ってくる。5年後、返済額が増額されるときにおいて、ネット銀行も含めた競合というのは出てくると思う。住宅ローンご利用のお客さまというのは、日ごろ面談してさまざまな提案等ができないので、プッシュ通知等も活用してリレーションを図っていきたい。

【質問⑦】

**Q. 三重県においては産官学が連携する「みえ半導体ネットワーク」が設立された。これに関して御行でも対応されているか。また熊本、北海道で大きな半導体関連の投資があるが、それらのプラスの影響が三重県にも出ているか、もしくは出てくると予想しているか。**

**A.** 熊本、北海道もそうであるが、三重県の場合は四日市にキオクシアという非常に大きな半導体企業がある。三重県も半導体という意味合いではプラスの要因になると考えている。今のところはまだ出ていないが、キオクシアの投資関係は非常に旺盛であり、プラスになってくると考えている。

【質問⑧】

**Q. 愛知県においては、地元2行が統合し、名古屋銀行も静岡銀行と提携するなど競争の激しい地域。御行の愛知県における貸出は増加しているが、御行の強みと課題について教えてください。**

**A.** 愛知県での貸出残高増加の主な要因としては、住宅ローンの増加と考えている。住宅ローンに関しては、人員の増強、拠点の増加、人員の教育などに力を入れ、その成果が出始めている。また営業力の強化以上に事務レベルを効率化によって上げることにより、その分を営業に回していきたい。法人融資に関しては、少し弱い面があるので、コンサル提案等で頑張っていきたい。

【質問⑨】

**Q. 現中期経営計画の折り返しだが、ここまでの手応えと課題について教えてほしい。**

**A.** 主な項目については資料に記載したが、KGI は全て達成している。KPI については、やや手数料絡みのところが苦戦しているところはあるが、最終年度に向けてこちらが増えてくだろうと期待している。十分な手応えがあり、来年は 150 周年に向けての次期中期経営計画の策定にも力を入れていきたい。

以 上